

「福岡がめざす子ども」を育てるために

# 高めよう！大人のチカラ

福岡県では、教育力向上福岡県民運動を展開しています。

この運動は、今の子どもが抱える本質的な課題を

「学ぶ意欲の低下」、「自尊感情<sup>\*1</sup>の低下」、「規範意識<sup>\*\*2</sup>の低下」、「体力等の低下」とし、

それらの克服をめざして、子どもにかかわる県民一人一人の教育力を高めるとともに、

学校、家庭、地域が主体的にそれぞれの教育力を高めながら

「福岡がめざす子ども～志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい子ども～」を育成していくものです。

## 子どもが抱える本質的な課題に気づこう。 そして取り組もう。

### 学ぶ意欲

目標の達成や課題の解決に向けて、自ら学び、考え、最後まで取り組むことのできる意欲を育てましょう。



### 自尊感情

広い視野に立ち、郷土に誇りと愛着をもち、自信をもって夢や希望に向かって努力する自尊感情を育てましょう。



### 規範意識

自分を大切に思い、相手の立場や気持ちを尊重し、ルールやマナーの大切さを理解して行動するなど自律心と思いやりの心を育てましょう。



### 体力等

規則正しい生活などの基本的な生活習慣を身に付け、困難なことにも忍耐強く挑戦できるたくましい心身を育てましょう。



※1.自分への自信、自分自身を価値あるものとして肯定的にとらえる感覚。課題を達成したり、他者から認められたりする経験が重要な役割を果たす。  
※2.善悪の判断や公共のルールやマナーを理解し、それらを実践する力。規範意識は、規範を教え、納得させ、実践させるといった段階的な指導が重要で、子どもにかかわる大人の一貫した指導が必要とされる。

# IV

役割意識と責任感を身に付けるために



## お手伝いを話し合って決めましょう。

家庭で子どもに役割をもたせ、その役割を果たす体験を重ねさせることで、子どもは生きていく上で必要な生活技能を獲得するとともに、家族の一員としての意識や責任感を身に付けていきます。

### ここがポイント

#### 1. 簡単で、毎日できることから始めましょう。

レベルが高いことをさせても長続きしません。簡単であれば、自然に習慣が身に付きます。

#### 2. 要領やコツを教えながら親子で一緒にやりましょう。

子どもはやっていないことはできません。できるようになるまで教え、楽しみながら一緒にやりましょう。

#### 3. 多少時間がかかっても、最後まで待ち、達成感を感ぜさせましょう。

子どもにとっては、自分でできた、最後までできたが大切です。それまで、大人は我慢です。

#### 4. 感謝の気持ちを伝えましょう。

「ありがとう」「助かった」といった保護者の感謝の一言がとても大切です。家族の役に立っていることや必要とされていることを感じさせることで、意欲や思いやりの心が育ちます。

# V

社会ルールや尊敬・感謝の気持ちを身に付けさせるために



## 大人が手本となりましょう

「子どもたちに社会ルールやモラルを守って生活してほしい。」子どもにかかわる大人であれば、だれもが思うことです。しかし、その思いとは裏腹に、子どもの良い手本になっているとは言えない大人の姿が見られるのも事実です。大人が意識や言動を変えていき、子どもに良い手本を示す必要があります。

### ここがポイント

#### 1. あいさつや言葉遣いを大切にしましょう。

あいさつは、子どもの規範意識形成の第一歩です。「おはよう」「ありがとう」「ごめんなさい」等を、大人が子どもと一緒に使ってきちんと使いましょう。

また、言葉遣いも大人の影響を受けやすいものです。相手、時、場合などを考えて使いましょう。

#### 2. 人を尊重する姿勢を意識的に示し、尊敬や感謝の気持ちを育てましょう。

年齢が低ければ低いほど、子どもは保護者の何気ない言葉に影響されます。したがって、日頃から、家庭が「ほめる」「認める」「尊重する」環境にあれば、子どもの自尊心や規範意識が高くなり、ものの見方や考え方が前向きで肯定的になります。つまり、プラスの効果が大きいのです。

逆に、子どもの前で人の批判をすることはプラスの効果が期待できません。「～ちゃんの先生はだめね。」という保護者の言葉を聞けば、子どもは先生を軽視し、先生の言うことをきちんと聞かなくなってしまう。先生の考えに疑問を感じることもある場合は、その意図をじっくり考えた上で、子どもがいないところで直接本人と話し合しましょう。

規範意識、尊敬や感謝の気持ちは、子どもの成長に応じて自然に身に付くものではありません。日頃から自分を育ててくれる人、物事を教え

てくれる人である年長者や先生を敬うことを保護者自身が態度で示し、教え、育てていくことによって初めて身に付くものです。思いやりの心をはぐむためにも、人を批判することをできるだけ控え、尊重したり、大切にしたりしましょう。

#### 3. 「みんなもやっているから」に流されない。「自分さえよければ」という行動を改めましょう。

よくないことだとはわかっていても、「みんなもやっているから、これくらいなら…」。「自分さえよければ」ということはありませんか。学校では、運動会時の過度なビデオ撮影や迷惑駐車、学習参観中の立ち話、学校周辺の車の運転マナーなど、保護者に配慮していただきたい状況が見受けられます。

また、学校外では、横断歩道以外での道路横断、ごみのポイ捨て、さらにはスーパーマーケット等の身障者専用駐車スペースに対象外の人駐車を、ということまでも見受けられ、学校内外を問わず社会の規範意識低下について憂慮すべき状況が増えてきています。

大人の自制心や安易に周りに流されない姿勢が、子どもの規範意識形成にとって重要です。子どもが将来にわたってルールやモラルを守れるようになるため、大人自身が行動を振り返りながら改め、良い手本を示すことがきわめて重要です。

